

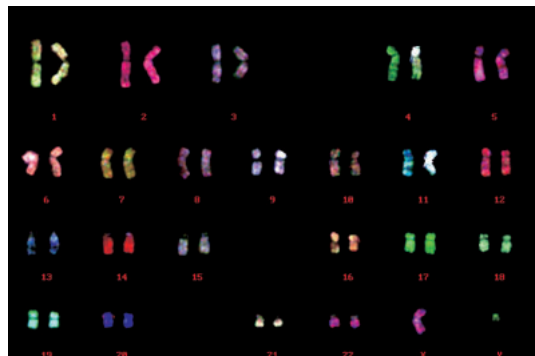
有限会社クロモソームサイエンスラボ

〒003-0801 札幌市白石区菊水1条4丁目6-55-1004
TEL 011-788-3431 FAX 011-788-3432 URL <http://www.chromoscience.jp/>

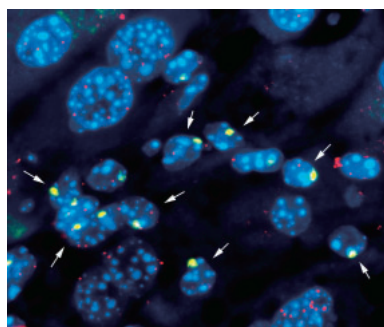
きめ細かいコンサルティングの実施により 精度の高い解析結果を提供



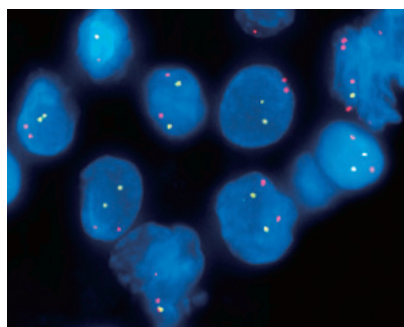
染色体解析システム



ヒト細胞染色体検査



細胞移植研究



ヒト腫瘍組織検査

会社データ

設立 平成16年1月
代表者 辻 雅久
資本金 300万円
従業員数 2名

事業内容

染色体解析・FISH解析受託サービス
FISH用DNAプローブ製造販売

クロモソームサイエンスラボは、北海道大学が保有する染色体解析技術をシーズに起業したバイオベンチャー。『FISH法』(蛍光in situハイブリダイゼーション法)による染色体解析の受託および解析用試薬(プローブ)の製造販売を通じて、全国の大学病院や研究機関、製薬会社などの多様な解析ニーズに応えている。ヒト、マウス、ラットから、サル、ブタなど種々の実験動物やイヌ、ネコ等のペットまで様々な動物種に対応した染色体解析技術を有することが同社の強み。各種動物の細胞や組織での染色体異常解析や、トランスジェニック(遺伝子改変)動物における挿入遺伝子の染色体マッピングなど、顧客の幅広い要望に応じた解析に対応することで、再生医療分野や腫瘍病理などの研究を支えている。

大学の研究成果を社会還元

クロモソームサイエンスラボは、染色体解析の専門企業として平成16年に設立。北海道大学動物染色体研究室で培われてきた技術・ノウハウを社会還元していくという理念のもとに創業し、染色体に関わる受託解析事業や研究開発事業を進めている。

染色体研究の歴史には、新たな技術開発がブレイクスルーとなって、約15年の周期で3度にわたる転換期があったと言われる。「細胞培養法」の開発によって、ヒトの染色体数が決定されたのは1956年のことである。その後、「染色体分染技術」により詳細な染色体解析が可能となり、先天異常や癌の研究が大きく進展した。さらに、「FISH法」(蛍光in situハイブリダイゼーション法)と画像解析システムの開発によって、染色体研究は一層の発展を見ることとなった。

FISH解析で豊富な実績

「FISH法」は、蛍光物質を使い特定の遺伝子の増減や染色体の中での位置を調べる解析法の一つ。結果が一目見てわかりやすいことが大きな特徴であるが、実施には高い技術や経験を要する。同社では、この技術・ノウハウを駆使して、「再生医療」、「腫瘍病理」、「薬剤開発」など様々な研究分野における受託染色体解析を行っている。

これまで、遺伝子改変動物の染色体上での位置を同定する染色体マッピングや、癌細胞、ES細胞などの染色体異常解析で実績を挙げた。また、組織切片を用いたFISH解析の開発と高度化を推進することで、腫瘍組織などの遺伝子増幅・欠失解析、移植組織における移植細胞の生着反応等の検出なども行っている。

幅広い研究ニーズに対応

同社の強みは、単なる受託解析業務のみではなく、様々な研究ニーズに対してきめ細かくコンサルティングを行いながら、実験系の確立や精度の高い解析結果を提供できること。顧客が検出したい遺伝子を伝えるだけで、それに対応したFISH解析用のDNAプローブ(解析試薬)の製作・提供も行っている。また、ヒト、マウスはもとより、ラット、ブタ、サルなど多岐にわたる実験動物に対応でき、あらゆる研究分野の特殊なニーズに応えられることも同社の差別化につながっている。

新たに、唾液や歯垢中の微生物の検出、土壌や水などの環境サンプルを対象とした微生物のFISH解析など「環境分野」の研究も支援するなど、受託ビジネスの範囲を拡大している。